

中国空軍ニュース：中国空軍がロシアから最新型空対空ミサイルを獲得
漢和防務評論 20180507(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国空軍が SU-35 の導入と抱合せで新型空対空ミサイルを輸入しました。射程 110KM のアクティブ・レーダー・ミサイルで、台湾が導入した AIM-120C よりも射程が長いとのこと。中国は SU-35 のランチャーに中国製ミサイルを搭載するようで、専用のアダプターを設計したとのこと。

KDR モスクワ平可夫特電：

中国空軍が写真を公表したことによって、中国空軍が最新型の RVV-SD 型空対空ミサイル（すなわち R-77 型空対空ミサイルの改良型）への換装を開始したことがわかった。KDR が以前 SU-35 の対中輸出契約を締結した件について報道した際にはわかっていたが、特別の事情があり報道は控えた。現在改めて公表することにした。

当時の KDR 報道の概要は以下のとおりである：

権威筋は KDR に次のように述べた：中国は、SU-35 と合わせて、一定数量の R-77 の改良型を輸入した（すなわち RVV-SD 型空対空ミサイル）と。

権威筋：我々はただミサイル搭載装置の適合に関するデータを提供しただけである、と述べた。

今後中国が SU-35 に搭載する武器は、主に中国製武器になる。

中国製武器の SU-35 とのマッチングの問題について、その他の権威筋は次のように述べた：中国側は、ロシア製の懸架装置に中国製武器を取付けるためのアダプターを設計した。ロシアはインドとの間でも同様の作業を行っている。インドの SU-30MKI にアダプターを取り付け、インドあるいはイスラエル製ミサイルを搭載した、と。

RVV-SD は、2009 年のモスクワ航空ショーに初めて出現した。RVV-SD は、RVV-AE を基礎にして、エンジンを全面的に改良し、全く新しいアクティブ・レーダー・シーカーに換装し、中距離空対空ミサイルに進化させた。射程は 110KM に増加、アクティブ・レーダー・シーカーのロックオン・レンジは 25KM を超えた。RVV-SD の重量は 190KG、弾頭重量は 22.5KG である。このミサイルは SU-35 の主要装備になる。

RVV-SD と RVV-AE は、外見で容易に弁別できる。尾翼の取り付け方式が異なっており、それは主として抗力を減らすためである。そのほか前者は、中段翼が長い。この改良目的は飛行中の安定性を増すためである。射程も大幅に増加した。RVV-AE の射程は 80KM である。シーカーのロックオン・レンジも増加した。台湾空軍が獲得したのは AIM-120C7 (射程 105KM) であり、最新型である。射程は RVV-SD が優勢である。このことから、中国が SU-35 とその搭載武器を輸入したのは、明確な目的があったことがわかる。

SU-35 の輸入に付随して、中国はその他の武器も輸入した。中国がそれらの武器の写真を公表したならば、KDR は詳細に説明したいと思う。

以上